

笑顔の ひろば

vol. **23**

秋号

発行

2013年11月25日
川崎協同病院広報委員会
川崎市川崎区桜本 2-1-5
TEL:044-299-4781(代)
FAX:044-299-4788

<http://kawasaki-kyodo.hospi.jp>

参加者が“病院探検” ～8年ぶりの健康まつり～

9月22日(日)川崎協同病院、協同ふじさきクリニックを会場に「健康まつり」が行われました。この地域で行われる健康まつりは、8年ぶり、職員と地域の医療生協組合員と一緒に準備を進めてきました。

協同病院では、「病院探検」と称して、参加者が病院内を見学し診療の一端などを実際に体験。4つのグループに分かれ旗をもった職員の引率のもと、手術室を見学したり病院食を試食したり、またリハビリ室でセラピストによる実際のリハビリを試すことができました。

手術室では、手術台の幅が狭いのにびっくり。しかし、実際寝てみると、寝心地のよさに参加者からは「長時間の手術でもこれなら大丈夫だね」という感想も。病院食の試食では、常食、ソフト食、刻み食など病状にあわせ食事の工夫がされていることを知ることができました。



あいさつする田中院長



健康相談のコーナーも設けられた



「病院探検」では
リハビリ室・手術室の見学や
病院食の試食も…



クリニックでは、血圧、体脂肪、肺活量、握力などの健康チェックや健康相談、医療講演会がおこなわれました。地域の方々の健康についての関心の高さがうかがわれました。

正しい手洗いのブースでは、手洗いをした後に手洗いチェッカーで、洗い残しはないか感染認定看護師の指導を受け、歩き方のブースでは、会場周辺を一周して、転びにくい歩き方を運動指導士より指導を受けました。

台風のため1週間順延しての開催となりましたが、各ブースに多くの方がつめかけました。参加者からは「また来年もやってほしい」「病院が身近になった。職員が親切にいろいろ教えてくれたのでよくわかった」など満足の高い感想がよせられました。参加した地域の人たちが、健康を考える1日となったようです。

看護部長 八木美智子

救急外来って どんなトコ?

川崎協同病院では救急外来と中央処置室が同じ場所に位置しています。救急外来は歩いて来院される方から救急車での搬送まで（1次、2次救急）24時間に対応しています。

救急外来は、協同ふじさきクリニックなど川崎医療生協の各診療所や訪問看護ステーションからの要請も多くなっています。また近隣の専門病院とも連携しながら川崎市南部地域の救急医療をすすめています。

小児科救急も川崎市南部の輪番病院として毎週木曜日夜間と日祭日の午前中に行っています。

近年、受診者の中には高齢者、単身独居の人、生活困窮者が多く見られ、厳しい社会環境を反映しているよう

です。私たち救急外来のスタッフは受診者の疾患だけではなく生活背景にも目を向けながら対応するよう意識しています。



中央処置室では、各診療科から出された指示に基づき、採血や点滴などを行っています。仕事中にけがをした人や学校でケガをした児童などが来院するケースもあり、外科の医師とも連携して処置にあたっています。

患者さんの中には平日に各診療科を受診し、土日祭日も点滴治療が必要な方もいます。院内の各診療科や協同ふじさきクリニックとも連携しながら、継続的に治療ができるよう配慮しています。今後も地域の皆様に安心してかかってもらえる救急外来になるようスタッフ一同努力していきます。

救急外来看護師長 三橋恒志

楽しく続けられるリハビリテーションを ～嚥下(えんげ)体操、民謡体操が大盛況～

あくしょん

川崎協同病院の北2階病棟は、2011年10月に病棟をリニューアルし、52床の回復期リハビリ病棟になりました。主に脳血管疾患や、骨折の手術後の患者様が自宅に帰るために日々リハビリテーションを行なっています。2012年



夏より病棟でのリハビリテーションの一環として、毎日夕食前に嚥下体操と民謡体操を始めました。体操は主に介護福祉士とヘルパーが指導しています。

嚥下体操は嚥下に必要な筋肉トレーニングになります。この体操を行うことで「誤嚥予防」になり、更には笑顔をつくることや楽しくおしゃべりをするにもつながります。嚥下体操を行うのは食事の直前がよいと言われています。理由は唾液がよく出るようになり、飲みこみやすく、食べやすくなるためです。トレーニングなので毎日継続していくことが大切になります。

民謡体操は短時間で楽しく行える体操なので、気軽に運動をするきっかけになります。音楽に合わせて、車椅子のままでできるので、患者様も参加しやすい体操です。

始めて間もないころは体操の参加者が少ないこともありましたが、最近は体操が始まる前に病棟内に放送をしたり、一人ひとりに声掛けをすることで参加人数も増え、大盛況となっています。

今後も続けていきたいと思えます。

回復期リハビリ病棟担当

私が担当します！

社会福祉への深い理解をもって 地域の皆さんが安心してかかれる 産婦人科を目指して

皆さん、こんにちは。留学生生活を終え、この夏川崎協同病院産婦人科に戻ってきました。李龍姫と申します。

私はもともと川崎協同病院で働いており、その中で疑問に思ったことをもっと深く学びたいと切実に感じ、カナダの大学院でソーシャルワークを学んできました。「医師なのになんでソーシャルワーク？」と周りには何度も不思議がられたのですが、医療とソーシャルワークは密接に関わりがあるし、人権と公正を核とするソーシャルワークの視点をみかくことは将来川崎協同病院で診療をしていく上で必ず役に立つと思いました。

留学へ快く送り出してくれた川崎協同病院には本当に感謝しています。



産婦人科 李龍姫

京都府立医科大学卒、川崎協同病院で初期研修後、汐田総合病院や、日本赤十字医療センター、川崎協同病院での勤務を経てカルガリー大学へ留学、学位を取得し、7月に川崎協同病院に帰任

のんびりしたカナダに比べ何かとせわしない日本での生活ですが、医療の現場に戻ってきて患者さまたちと接することができるのは本当に嬉しいです。学んできたことを活かせるよう、今後も病院スタッフや地域の皆さまと一歩一歩前に進みたいと思っています。

私が担当します！

心臓カテーテル治療の 充実を図っています！

川崎協同病院・循環器内科の石井と申します。循環器内科とは、心臓や血管の病気を扱う科です。この種の代表的な病気としては心不全や狭心症、不整脈があります。

治療内容は「薬による治療」が多くを占めていますが、狭心症に対しては「カテーテル治療（俗にいう風船治療）」という特殊な治療を行います。カテーテルとは細長い管のことで、これを手首などの血管から挿入して、詰まった心臓の血管を治療します。

現在当院にはカテーテル装置が1台あり、カテーテル検査・治療を週に4～8件程度実施しています。しかし、循環器内科医師の診療体制が十分に整っていないため、せっかくの高価なカテーテル装置（数億円します！）を稼働できない時間帯があり、緊急的なカテーテル治療も施行できないのが現状です。

そこで、僭越ながら…私に白羽の矢が立ちました。日本有数のカテーテル専門病院へ研修に行かせて頂きカテーテル治療の修行をしてきました。一年間の研修を終えて2013年秋に当院へ戻り、現在カテーテル治療を充実させるために奮闘しています。期待の新人循環器内科医師も後



循環器内科 石井 愛

昭和大学卒、川崎協同病院にて初期研修した後、引き続き循環器内科にて後期研修、昨年より1年間済生会東部病院にて研修し、10月に川崎協同病院に帰任

期研修を開始し、循環器内科チームとして2014年初頭からは緊急カテーテルの開始を予定しています。

また、近隣の診療所へ外来支援にうかがい、カテーテル治療適応のある患者様を一人でも多く治療させていただけたらと考えています。

【開業医の先生方へ】

川崎協同病院の内科外来は、近接する協同ふじさきクリニックにて開設しています。協同ふじさきクリニック循環器外来の受付は土曜日を含む毎日午前中です。狭心症や閉塞性動脈硬化症などを含む循環器疾患の患者様をご紹介頂けると幸いです。



利用者も職員も明るく！ アットホームな雰囲気づくりを かわさきケアセンターそよ風

病院は地域との連携が何より大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎号紹介していきます。第3回は「かわさきケアセンターそよ風」。グループホームを中心に紹介します。

(取材：地域連携室 小森千絵、高橋靖明)

4階建ての1階入口では、デイサービスを利用する人たちが職員の元気な声が聞こえ、懐かしい音楽が流れ、活気に溢れています。「そよ風」は全国に240の事業所をもっています。そのなかで「かわさきケアセンター」は平成15年にデイサービス、グループホーム、ホームヘルプ、居宅介護をあわせもつ施設としてオープンしました。

グループホームは2階と3階にわかれていて、それぞれ「風月」「風花」という名前がついています。定員は9人で、酸素など医療の必要な方も入所しています。

合同のレクリエーションや行事があり、毎日のあいさつをはじめ体操、散歩、交代での買い物を家庭生活の延長として取り入れています。体操を続けることで体力をつける、認知症状の強くなる時間にあわせて散歩をし、気分が落ち着くようにするというように、それぞれ目的をはっきりさせています。

また、職員が明るくし、楽しく仲良くすることが、利用者の元気につながると考え日々の介護にあたっているとのことでした。



～住み慣れた地域で最期を迎える～

「そよ風」の特徴の一つに“看取り”があります。川崎協同病院と同一法人であるふじさきクリニックからの往診チームと連携し、看取られる本人や家族の思いを尊重し、今までに4人の入所者の最期を看取っています。

往診という支援によって、ホームで最期の場合に立ち会うことが最高の仕事だと職員も感じる事ができ、仕事を上する上で大きな自信につながっているようです。

●協同病院へひとこと・・・

近くにあって勉強会を開いてくれるので、スタッフも行きやすく学習の機会ができます。入院すると退院時カンファレンスに声をかけてくれるので受け入れ体制を整えられます。

●おじゃまして・・・

施設での看取りはとても不安が大きいと思います。医療機関との連携で安心できる場所で最期を迎えることができることは、これから求められていくことでしょう。そのために病院としてできることを積極的に考えていきたいと思いました。

(協力：二関幸子センター長 淡路小百合グループホーム管理者)
かわさきケアセンターそよ風
川崎市川崎区浜町 3-3-2 TEL：044-328-6235

広報係 の ひとりごと

当院には看護学生室という部署があり、将来当院で働く看護師を確保するための取り組みを行っています。その一つに高校生一日看護体験という企画があり、今年の夏は130人余りが参加しました。「ちょっと看護師さんの仕事をのぞいてみたいなあ」という人もいれば、「絶対看護師になってやる」と固い決意を持っている人もいます。動機は様々ですが、少しでも多くの参加者に看護の魅力を感じてもらいたいと思いながら取り組んでいます。病棟で見かけたときは温かいまなざしで見守って下さいね。

看護学生担当事務 平舘浩美

